

今、知っておきたい物流topics

サントリーなど『社会課題対応研究会』を発足

2024年11月21日、下記の清涼飲料5社は、飲料業界全体で物流2024年問題や、温室効果ガス(GHG) 排出量削減や食品ロス問題といった社会課題の改善に向けて取り組むため、「**社会課題対応研究会**」を発足させました。発足発表の場には各社社長など経営幹部が揃いました。

個社や2社間では解決が難しかった社会課題に対して、5社が協力して解決につなげることが目的です。具体的な取組みはこれからとのことですが、先進的な取組みについて業界およびサプライチェーンに波及させる影響力は非常に大きいと期待されます。ここでは各社が物流危機対応のため、これまでどんなことを行ってきたかまとめておきます。

最近の各社の取組み

アサヒ飲料	伊藤園	キリンビバレッジ	コカ・コーラ	サントリー
生産・販売・在庫管理システム利用による輸送量の平準化から、輸送台数、在庫削減。水素燃料電池大型トラックの走行実証によりCO2排出量削減にも取り組む。	日清食品や全農グループと共にモーダルシフト。静岡⇔関東、静岡⇔愛知など、中距離帯でも実施。空きパレットの共同輸送、貨物の軽重を組み合わせる他社混載も実施。	生産・販売・在庫管理システム利用による輸送量の平準化、輸送コスト、在庫日数の削減。ASNデータ活用による検品レス、待機時間の軽減。車単位での運賃支払い、単価引き上げ。	選ばれる荷主を目指す。予約システム、配送業務支援アプリ等導入。荷待ち、荷役時間を半減。トラックに合わせて出荷準備を行うシステムも。大型自動物流拠点設置。空き車両を異業種と連携して活用。	同業者との長距離共同輸送、トレーラー化&中継によりトラック台数削減。飲料特性（ウイング車メイン）に合わせたセンター設計。夜中にピックアップしたものを置いておける場所設定。積載率が高い商品設計。